風光明媚な坂の街 「サンフランシスコ」

街plus
探訪

在サンフランシスコ日本国総領事館 加藤彰浩 Akihiro Kato

1 自己紹介

初めまして、2016年6月から在サンフランシスコ総領事館で勤務している加藤彰浩と申します。私自身、元々は総務省で携帯電話の周波数調整などの電波政策や電子申請システムの運用などの電子政府関連に携わっておりましたが、現在は外務省へ出向という形で、在サンフランシスコ総領事館の経済班にて勤務しております。主な業務は、シリコンバレーをはじめとしたカリフォルニア州の経済事情調査、日本政府関係者の当地訪問アレンジ、米国進出する日本企業支援などですが、今回このような機会を頂きましたので、サンフランシスコという街がどのような所か、実際に住んでいる視点から御紹介させて頂ければと思います。

2 サンフランシスコ市の概要

サンフランシスコは、アメリカ西海岸カリフォルニア州におけるロサンゼルスと並ぶ二大都市の一つです

が、実は市の人口は85万人ほどで、意外と少ないと思われるかもしれません。（ただし、対岸のオークランド市や南のサンノゼ市などを含めた広域都市圏となると人口は700万人以上。）面積は約120km²で、山手線が二つ分弱の広さに約85万人が住んでおり、東京23区ほどではないものの、それなりに狭いエリアに人口が密集していると言えます（図1）。

サンフランシスコの歴史をひも解くと、元々はスペインの植民地で、坂が多く人が住みにくい土地でしたが、メキシコの領土からアメリカの領土となった後、1848年に始まったカリフォルニア・ゴールドラッシュで状況が一変します。世界中から金を求めて多くの人が押し寄せ、ゴールドラッシュの玄関口としてサンフランシスコは発展を遂げ、1848年に850人だった人口は、1852年には3万6,000人にまで膨れ上がります。市内はとにかく坂道が多く、よくもこんな所に家を建てたなという場所も多いのですが、これもゴールドラッシュ時代に人口が急増した名残と思われます。

気温は一年を通して安定しており、夏場の最高気温

図1 サンフランシスコ市の周辺地図

が約 20℃と比較的涼しく、冬場も最低気温が約 10℃と何か羽織る上着があれば過ごせるくらいです。日本から来る人でよく「カリフォルニアはまばゆい太陽が降り注ぎビーチが多いイメージなのできっと暖かいだろう」と思われる方が多いのですが、これは同じカリフォルニアでも南のロサンゼルスやサンディエゴのイメージであり、むしろ海流の関係で霧が発生し冷える夏場に半袖でサンフランシスコにやってくるとかなり後悔する羽目になります。

人種構成は、白人が約 30%，アジア系が約 30%，ヒスパニック系が約 30%，黒人その他が約 10%と、アメリカの都市の中でも古くからの移民が多かったアジア系の割合が高いのが特徴です。

日本との関わりもその歴史は古く、海で遭難してアメリカに渡ったジョン万次郎が 1850 年頃ゴールドラッシュで金を掘っていたという記録が、サンフランシスコ近郊では最初の日本人ではないかと言われています。その後、日本で初めて太平洋を横断した江戸幕府の軍艦「咸臨丸」や、明治の国づくりにあたって先進国を視察する旅に出た「岩倉使節団」など、全てサンフランシスコが最初の到着地であり、サンフランシスコは日本にとって太平洋を越えた先の玄関口として位置付けられていました。その後、日本の各地方から農業移住者が激増しますが、当時は日本人に対する差別や偏見も激しく、太平洋戦争中には約 12 万人の日本人・日系人が全米各地に強制収容されるという悲劇が起こります。そのような苦難を乗り越え、戦後は日米が同盟関係となったこともあり、現在は日本企業駐在員をはじめとする日本人や、古くから移民した日本の血を引く日系人がサンフランシスコには多く在住しています。

主な観光名所は、赤色が象徴的なゴールデンゲートブリッジ、元々監獄だったアルカトラズ島、ショッピングやグルメが楽しめるフィッシャーマンズワーフ、

図2 ケーブルカーで立ち乗りして見える風景

ドラマ『フルハウス』で有名なビクトリア調のカラフルな住宅が並ぶアラモスクエアなどなど挙げれば切りがありません。

3 交通事情

公共交通機関は「Muni」と呼ばれるバス、路面電車が中心ですが、対岸のオークランド・バークレーから南のサンフランシスコ国際空港まで縦断する電車「BART」が市内の地下を走っています。また、街のシンボルでもあるケーブルカーも 3 路線が運行していますが、こちらは観光客向けの移動アトラクションとしての意味合いが強く、車内に座らず棒につかまって立ち乗りするスタイルがスリリングで人気を博しています（図2）。

また、サンフランシスコ発祥のライドシェアアプリである「Uber」（図3）及び「Lyft」が圧倒的に便利で、一部の観光客を除きタクシーを使う人はほとんどいません。Uber は近くの車 1 台が配車される「Uber X」が一般的に有名ですが、そのほかにも同じ方向に向かう乗客をマッチングさせて相乗りする「Pool」という割安な仕組みや、車が拾いやすいスポットまでユーザーに少し歩いてもらうことで時間を短縮する「Express Pool」という更に割安な仕組みが存在します。スマホアプリによって「移動したい人」と「人を乗せて稼ぎたい人」を即座につなげ、独自のアルゴリズムで効率的な移動を実現しています。これらの先進的なアプリは幾ら話を聞くよりも、実際に使ってみないとその利便性は身をもって体感できませんので、是非アメリカ

図3 Uber のアプリ画面

にお越しの際は Uber/Lyft を試してみてください。

4 食事情

「サンフランシスコの名物料理は？」と聞かれれば、やはりシーフード、特にダンジネスクラブという種類のカニやクラムチャウダー（図4）が有名です。また、サンフランシスコより北部に位置するナパ・ソノマ地区は、カリフォルニアワインの産地として有名ですし、意外と知られていませんがクラフトビールもそれなりに有名で、各地に小さな醸造所（マイクロブリュワリー）が数多く存在しています。

サンフランシスコは世界中からの移民が多く、各国の移民が形成した街（チャイナタウン、ジャパントウン、リトルイタリー、リトルサイゴン等）が存在します。アジアをはじめとして各国の料理が食べられるという点は、日本人にとって有難い限りです。昨今の日本食ブームも相まって、ミシュランガイドで星を取るような高級日本料理店から、日本でチェーン展開をするラーメン屋やうどん屋の進出が相次いでいます。ただしラーメンと言っても、物価高が反映された価格帯となっており、1杯12~13ドルが相場で、税金やチップが入ると1杯約2,000円と、日本の感覚からすると高級な食べ物という感じがします（図5）。

5 経済事情

Google, Apple, Facebook など世界を代表するIT企業や半導体関連企業が集積するいわゆる「シリコンバレー」は、サンフランシスコから車で1時間弱ほど南方に移動した場所に位置しています。サンフランシスコは、元々西海岸の金融センターとしての役割を果たしていましたが、2000年代後半からTwitter、

図4 名物クラムチャウダー

図5 豚骨ラーメンは大人気

Uber, Airbnb などの新興企業が続々と誕生し、新たなイノベーションの中心地として世界中から‘ひと’、‘かね’、‘もの’を集めています（図6）。

6 プロスポーツチーム

サンフランシスコのプロスポーツチームと言えば、まずはMLBのサンフランシスコ・ジャイアンツでしょう。本拠地であるオラクルパーク（2019年にAT&T

図6 サンフランシスコ・シリコンバレー企業マップ（ロゴは各社Webサイトから引用）

パークから名称変更、図7)は、ライト方向のフェンスがサンフランシスコ湾に面しており、場外ホームランはボールがそのまま海に飛び込むことで有名です。その昔ホームラン競争をしていたバリー・ボンズのホームランボール目当てに、多くのファンがボートで待ち構えていた姿が記憶にある方も多いのではないかと思います。

また、プロバスケットボール NBA のゴールデンステート・ウォリアーズもサンフランシスコを代表するプロスポーツチームです。直近の4シーズンで何と3回も NBA チャンピオンに輝いており、最強チームの名をほしいままにしています。ホームアリーナは湾を隔てた対岸のオークランド市にありましたが、2019-2020 シーズンからサンフランシスコ市内に新たに完成するチェイスセンターへと移ることとなり、サンフランシスコのスポーツ界が一層盛り上がりを見せそうです。

7 社会問題

近年サンフランシスコにおける物価上昇、特に住宅コストは高騰が続いており、サンフランシスコの1LDKの家賃平均は3,500ドル(=約40万円)以上と、今ではニューヨークを抑え全米一家賃が高い都市として知られています(図8)。シリコンバレーのエンジニアなど金銭的に余裕があり、かつ都市部に住みたがる若者が増えているものの、過去に制定された過剰な建築制限で高層ビルが立てられないなど住宅の供給が追い付かないことが一因とも言われています。

また、市民の格差が拡大することによるホームレスの増加問題もサンフランシスコ市の悩みの種です。アメリカはどの都市部もホームレス問題を抱えていますが、特定の地域に集中していることが多く、そのエリアに近付かなければホームレスに遭遇することはありませんが、サンフランシスコの場合、ユニオン・スクエアというホテルやショッピングが集中する繁華街の近辺でもホームレスが多く、少し歩いただけでも頻繁に金銭や食べ物をねだられます。カリフォルニアは州単独の経済規模でいまや世界で5番目、イギリスを上回る規模へと成長した影で、格差が急激に広がっているという実感もホームレスの多さから見て取れます。

図7 オラクルパーク(旧AT&Tパーク)

図8 全米で1LDK家賃が高い都市トップ10
Zumper社2019年3月版

8 むすびに

いかがでしたでしょうか。サンフランシスコは僅か170年前のゴールドラッシュ時代に世界中から人が集まり、地政学的にアジアの玄関口であったことからアメリカの中でも多様な人種構成となりました。カルチャーが融合し新しいものを常に受け入れる土地柄であったことも作用した好循環が生まれ経済発展が続くという、世界中でも見逃すことのできない都市の一つかと思います。サンフランシスコは常に変化し続けていますので、まだ訪問されたことのない方や、しばらく訪問してない方も、是非機会を見つけていらして下さい。きっと新たな発見があることと思います。

加藤彰浩

仙台市生まれ。2008 東大・工学卒。同年総務省入省。情報通信技術の研究開発プロジェクト、モバイル用周波数の国際間調整、政府情報システムの運用等に携わり、2016 年からサンフランシスコ日本国総領事館で勤務。